

野菜・畑作用殺虫剤

FMC

プレバソン® フロアブル5

powered by
RYNAXYPYR®
ACTIVE INGREDIENT

早めの散布でアワノメイガの被害から とうもろこしをしっかりガード!

プレバソン®フロアブル5はアワノメイガに対して約2週間高い効果を持続します。
長い効果を上手に生かしてアワノメイガの被害からとうもろこしをしっかりガード
しましょう。



250ml

500ml

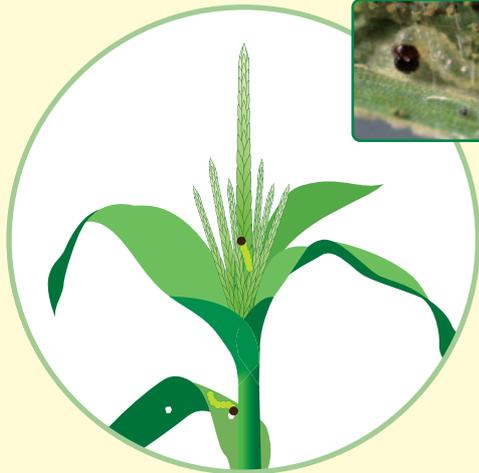
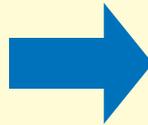
アワノメイガの生態と防除のポイント

アワノメイガの生態

雄穂が出始める頃、
とうもろこしに飛来し、
葉裏に産卵。



成虫(左:雄、右:雌)



1齢幼虫

ふ化した幼虫は葉の表面を
かじりながら移動し雄穂に侵入する。

注意! 雄穂に侵入されると
薬剤が効きづらい!

防除の ポイント

プレバソン®フロアブル5を10日間隔で2~3回散布

↑
プレバソン®フロアブル5の
長い残効を生かして、
この時期早めに散布



↑
とうもろこしの葉は水をはじくので、
必ずぬれ性を向上させる展着剤を加用して下さい。

キャベツ・はくさい・レタス・非結球レタス・ブロッコリー・だいこん・なす・ほうれんそうなど
とうもろこしと隣接して栽培する作物でも「収穫前日まで」使用できます。

早めの散布でアワノメイガの被害からとうもろこしをしっかりとガード！

■ 散布のポイント

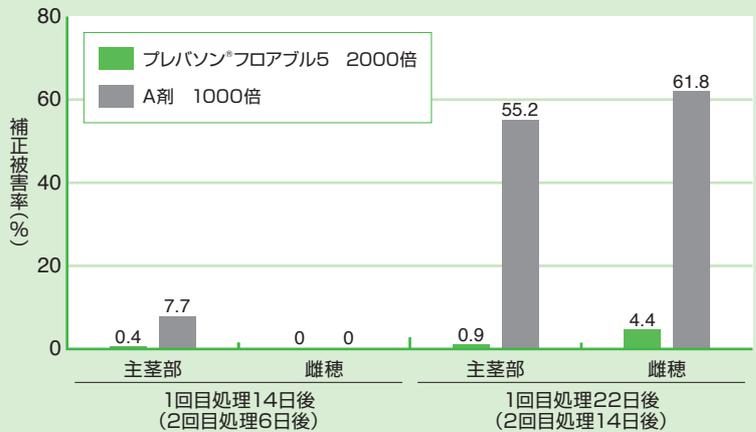
**雄穂の出始めから
散布をするのが効果的です。**

- 2週間以上効果が続きます。
- 雄穂抽出期からの散布で、アワノメイガによる被害を抑えます。

【試験概要】

品 種：キャンベラ90 播 種 日：5月14日
 処 理 日：6月25日(雄穂出穂初期)、7月3日(雌穂出穂初期) - 2回処理
 調 査 日：7月9日、17日 発生状況：多発生
 区制・面積：1区12.6㎡(4.5×2.8m)、66株、3反復

■ アワノメイガに対する効果比較 (2009年 日本植物防疫協会 高知試験場)



■ 適用害虫と使用方法 (適用表から一部)

2017年8月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロロールを含む農薬の総使用回数
とうもろこし	アワノメイガ オオタバコガ	2000倍	100~300 l / 10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

■ 上記以外の登録作物

キャベツ、はくさい、かぶ、非結球あぶらな科葉菜類、タアサイ、あすっこ、アマランサス(茎葉)、なばな、だいこん、はつかだいこん、カリフラワー、ブロッコリー、茎ブロッコリー、はなごりー、レタス、非結球レタス、トマト、ミニトマト、なす、とうからし類、ピーマン、きゅうり、ズッキーニ、メロン、すいか、とうがん、いちご、せり科葉菜類、パセリ、らっきょう、ねぎ、えだまめ、だいず、未成熟そらまめ、さやいんげん、いんげんまめ、実えんどう、さやえんどう、やまのいも、かんしょ、さといも、アスパラガス、ほうれんそう、モロヘイヤ、エンサイ、つるむらさき、パジル、しそ、えごま(葉)、ふき、クレソン(土耕栽培)、ごま、オクラ、しょうが、たばこ

⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ってください。
 - ① 散布は散布機種種の散布基準に従って実施してください。
 - ② 散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- つまみ菜、間引き菜には使用しないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

⚠ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください。

- 本剤は皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮ふに付着しないよう注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理 (IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、プレバソン®フロアブル5または他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト

- (1) Insecticide Resistance Action Committee(IRAC)ウェブサイト (<http://www.irac-online.org>)
- (2) <http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC>

● ラベルをよく読んでください。 ● 記載以外には使用しないでください。 ● 小児の手の届く所には置かないでください。 ● 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ● 防除日誌を記帳しましょう。

販売

日産化学株式会社 / 北興化学工業株式会社
丸和バイオケミカル株式会社(五十音順)

製造

エフエムシー・ケミカルズ株式会社
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビル8階
www.fmc-japan.com

製品情報はこちらから▶



CO7.2M1808